

地方における景況の遅行とその原因： 地方景気の遅行はランダムな現象か、構造的現象か？

中京大学 村上敬進

報告要旨

本稿は、景気変動を地域単位で分析する経済学上の重要性を地域金融、情報の非対称性を利用した金融理論などから検討し、今まで体系的に分析されなかった各地域の景気と全国景気の先行・遅行関係を、各県の景気基準日付および地域別鉱工業生産指数を用いて明らかにした。本稿の主要なファクトファインディングは、以下のようにまとめられる。第1に、地域景気の遅行はランダムな一時的現象ではなく、全国景気に対して地域景気が遅行する傾向が強いという意味で構造的な現象である。もしくは、地方の景気が遅行する確率は、大都市圏の遅行確率よりも高い。第2に、景気が遅行する地域、または景気後退期間が全国と比べて長い地域は、大都市圏（関東）の影響を受けにくい地域である。以上の発見は、先行研究とは異なった視点で、地域景気の遅行原因に関する仮説の定立を可能にする。更に、景気の遅行原因が解明されれば、地域景気の遅行が一国の景気変動や資源配分の効率性に与える影響も分析が可能になるであろう。

JEL classification: E32; E44; R11

Keywords: 地域景気の遅行; 景気基準日付, 時差相関, 分散分解

討論者コメント

村上敬進氏 「地方における景況の遅行とその原因：地方景気の遅行はランダムな現象か、構造的現象か？」

名古屋市立大学 外谷英樹

本論文は、各地域の景気の動きについて、「景気基準日付」と「地域別鉱工業生産指数」の2つのデータをもとに検証している。得られた主要な結果は、「地方と大都市圏との間では、構造的に地方が大都市圏（全国景気）よりも景気が遅行する」ということである。

分析で著者は、都道府県ごとにデータの問い合わせなどをして、「景気基準日付」と「地域別鉱工業生産指数」を入手し、それらの膨大なデータを用いて、詳細、かつ頑健な手法から、興味深く、かつ明快なファクトファインディングを行っている。また、これまであまり先行研究がない分野に、自らの問題意識のもと、近年の経済理論（情報の経済学など）や複数のデータセットを様々な実証手法（相関分析、グレンジャーテストなど）に基づいた分析がなされており、非常に独創的な研究であるといえよう。

このようにして得られた結果は非常に興味深いものであるが、この結果が更に重要な意味を持つために、以下の2点を今後、検討して頂きたい。まず、第一に、「得られたファクトファインディングは経済学的にどのような意味があるのであろうか？」ということである。例えば、「地方景気が構造的に遅行し、景気が徐々に伝播する事実」は果たして、一国全体の経済にとって望ましくないことであらうか、それとも望ましいことなのであろうか。これは、所得分配と経済発展に関する議論や景気平準化の議論が有益かもしれない。また、そもそもこの事実によって、地域住民の厚生はどのような影響を受けるのであろうか。この点に関しては、理論モデルや実証分析など、様々な分析が考えられるが、例えば、実証分析の観点からは、「地方景気の遅行」の指標と「地域経済成長」や「地域一人当たり所得水準」の関係などが一つの解釈を与えるであらう。

第二に、「得られたファクトファインディングはなぜ生じるのであろうか？」ということである。国際間よりも、遙かに人やモノの移動が自由な国内の地域で、なぜ構造的な地方景気の遅行が起きるのであろうか。比較的同一的な生産構造、需要構造のもとで、大都市圏での景気拡大が徐々に地方に波及していくことなのであろうか。それとも、生産構造、需要構造が地域によって異なるために、景気の遅行が生じるのであろうか。具体的には、各地域経済のファンダメンタルズである1) 地域間による生産構造（産業構造、労働者の質（人的資本）、投資行動（物的資本）、地域間における人やモノなどの移動を通じた知識水準など）、2) 地域間による需要構造（人口年齢構成など）、3) 地域間の政府（地方自治体の活動、政府交付金の影響）などの相違が、何らかの影響を与えている可能性があるかもしれない。

この論文で得られた「地方景気が構造的に遅行する」という結果は、非常に興味深い。今後、上記の点を考慮されて、より意義のある研究になることを期待したい。

報告者リプライ

第1のコメントに対する回答

討論者のおっしゃる通り，地方景気の構造的遅行が社会厚生にどのような影響を与えるかを理論面および実証面から探求しなければならない。ご指摘いただいた，地域住民の厚生と景気遅行の関係は，すぐに着手できる研究課題であり，取り組んでいきたい。

第2のコメントに対する回答

先行研究では，全国景気に対する地域景気の遅行原因を，各時代・各地域の産業構造に求めていた。しかし，地域景気の構造的な遅行傾向が明らかになったことで，地域の景況の遅行に関して何がしかの「一般理論」が存在する可能性が出現した。

地方景気の遅行原因を考える場合，景気が遅行する地域は大都市圏の影響をあまり受けないという遅行の特徴が大きなヒントになるであろう。討論者のコメントの通り，各地域の生産構造や需要構造が大きく異なっているために関東の影響をあまり受けず，景気が遅行すると考えることもできる。たとえば，大都市圏には大企業が集中し，地方には中小企業の割合が多いという事実から，企業規模別の生産（産業）構造に着目した研究も可能であろう。

また，討論者のご指摘の通り，国際間と比べれば，各地方の生産構造や需要構造は比較的同一であろうし，人の移動も自由である，と考えることもできる。この場合，他に遅行原因を求める必要があるであろう。この場合，たとえ経済のファンダメンタルが各地域で同一でも，地域ごとに景況が異なる可能性が存在することを示さなければならない。たとえば，各地域で生産技術は同じでも，地理的な要因でもたらされる情報の非対称性によって，資本による調整が遅れる可能性も存在するであろう。